



Contents

- *1000人のインターネットアンケート調査から
- *新型コロナウイルス感染症に対する医学会と会員の取り組み
- *矯正歯科医学会の取り組み⑤「養護教諭等向け講師派遣事業」

歯と歯並びの ニュースレター Vol.6

発行元
公益社団法人 日本臨床矯正歯科医学会
〒107-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9
(一財)口腔保健協会内
TEL.03-3947-8891 FAX.03-3947-8341
https://www.jpao.jp/
2020.7.22 発行



1000人のインターネットアンケート調査から

安心・安全により咬み合わせ・歯並びを得るための 矯正歯科医院選びのヒントとは？

専門性が高い反面、選択の基準は安さと利便性

公益社団法人日本臨床矯正歯科医学会（以下：本会）では、2020年3月に20歳代から60歳代のランダムサンプリングされた一般男女1000人に対して、インターネットによる意識調査を行いました。今回の調査は、矯正歯科治療の専門性に対する国民意識と治療を受ける際の医院選びの基準や情報源についての現状を把握することを目的としました。

その中で「矯正歯科治療は専門性が高い治療だと思いますか？」という質問に対し、約8割の人が「思う」との回答がありました。しかし、「あなたが受診しようとする（受診した）矯正歯科の選択基準は？（複数回答）」という質問に対しては、「利便性」、「噂や口コミ」、「費用」、「ホームページ」が上位に上がり、情報源としては口コミやホームページを挙げる回答が多数でした。

別の質問として「治療を受ける医院の選択基準で一番重要視するところは？」という質問に対しては「費用が安価であること」が最多であり、その後「通院に便利な立地条件」、「矯正歯科専門の歯科医院」という回答が得られました。これらの回答を総合すると、「矯正歯科は専門性が高い」との認識を持ちながらも、行動としては「安くて便利で口コミやホームページを見てよい医院」と感じた歯科医院を選択しているという結果となりました。

治療先での金銭面のトラブルは20代女性で最多

一方、「情報源である医療広告の規制について」の設問では、ホームページによる歯科医院情報についての規制は、「知らない」「規制はないと思っていた」が合わせて85%以上でした。また、「矯正歯科治療において、医院とのトラブルや悩みを経験したことや聞いたことがありますか？」という問いに対しては「なし」との回答がほとんどでしたが、治療経験者では約4割の人が「あり」との回答でした。性別・年齢別に見ると、「ある」と答えた割合は20代の女性が最も高く、その内容は「金銭面」に続き、「治らない等の治療結果に関するトラブル、悩み」でした。

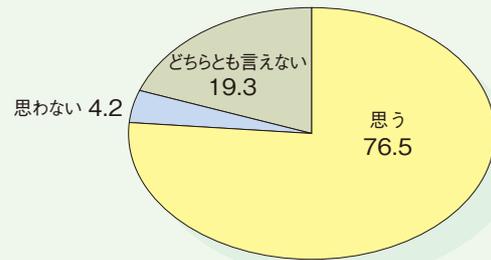
このアンケートの結果からいえるのは、医院のホームページには正確な情報発信が必要不可欠であることです。

ホームページにおける正確な情報発信が大切

なぜなら、20代女性の6割以上が噂やクチコミ、ホームページを医院選択基準や情報源としており、約半数が「費用が安価であること」を最重要視しています。反面、「矯正専門の医院であること」を最重要視している割合は1割しかいません。このことから、ホームページや通院した人の口コミからは有用な情報が得られることがある反面、治療内容についての情報の信憑性の判断は一般的には困難と考えられ、情報源であるホームページにも危険な情報がひそんでいることを広く啓発していく必要があります。

この結果を受け、裏面では本会からの提言を掲載しています。

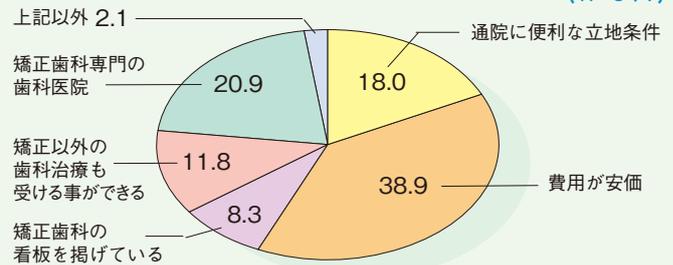
矯正歯科治療は専門性が高い治療だと思いますか？ (%) (n=1030)



あなたが受診しようとする（受診した）矯正歯科の 選択基準は？（複数回答） (%) (n=398)



治療を受ける医院の選択基準で一番重要視するところは？ (%) (n=517)



矯正歯科治療において、医院とのトラブルや悩みを経験したことや聞いたことがありますか？ (%) (n=1030)



本会からの提言

矯正歯科診療所が備えるべき
6つのポイント

矯正歯科専門開業医の全国組織である本会では、患者さんに安心して治療を受けていただくための6つのポイントを提示し、ホームページにおける医療広告ガイドラインを遵守し、正確な情報を発信することで、矯正歯科医療に対する信頼性の向上に尽力していききたいと思います。

- 1) 頭部×線規格写真(セファロ)検査をしている
- 2) 精密検査を実施し、分析・診断した上で治療をしている
- 3) 治療計画・治療費用について詳細に説明をしている
- 4) 治療前に治療中の転医※や治療費精算の説明をしている
※転医とは、治療中にやむを得ず、診療所を替えること
- 5) 常勤の矯正歯科医がいる
- 6) 専門知識のある歯科衛生士、スタッフがいる

本会と会員は、新型コロナウイルス感染症の
リスク低減に取り組んでいます

ホームページやメールで正しい情報を会員に発信

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は瞬間に世界中に拡散し、日本でも4月16日に全国に出された緊急事態宣言により、職種によっては自粛要請がありました。

歯科医院などの医療機関には自粛要請は出されていませんが、多くの歯科医院では緊急性のない治療は控えて患者さんの来院を減らし、外出をしないことによる患者さん自身の感染リスクの減少や歯科医院内での感染防止を促しました。会員の中には医院を休診にして、患者さんやスタッフに不要不急の外出をさせないように努めた例もあります。本会でも厚労省や日本歯科医師会などから発せられる情報を整理し、ホームページやメールにて会員に発信・周知しています。

日常から徹底している感染予防策をより徹底
歯科医院からのクラスターは「0」

こうした中で「歯科医院は感染リスクが高い」という情報が多くみられましたが、果たして本当にそうなのでしょうか？

確かに歯科治療は患者さんとの距離が近く、タービンなどの切削器具によりエアロゾルが発生する場合があります。我々歯科医師は、そのことを十分承知し、新型コロナウイルスが出現するずっと以前からスタンダードプリコーションと呼ばれる感染予防対策を日常的に行っています。つまり、来院されるすべての患者さんに感染症の疑いがあることを前提として、対策を立てた歯科治療を行ってきたのです。具体的には、診療器具の滅菌、マスク・メガネ(ゴーグル)の装着、手指の消毒、患者さんごとのグローブの取り替えなどです。それらに加え、今回は施術前のイソジンやリステリンでのうがい、フェイスシールドの装着など、通常以上の感染予防が多くの歯科で実施されています。こうした対策により、歯科医院で

※医院によってフェイスシールドはゴーグルで代用する場合もあります。



患者さんが感染源となってクラスターが発生したという報告は、今のところありません。(6月18日の日本歯科医師会会長コメント掲載記事から)

口腔内をよりよい環境にすることは
感染リスクの低下につながる

歯科治療の受診を怖がるのではなく、歯と口の中の健康を維持することが、この時期には重要です。進行した口腔感染症による免疫機能の低下により、全身の感染リスクは高くなります。ハミガキやうがいなどのオーラルケアを行った場合には感染症の罹患率が低下することが知られています。

矯正歯科治療中の患者さんは治療をしっかり行い、ハミガキしやすい歯並びを獲得し、かかりつけ一般歯科にも定期的に通院して口腔内を健康に保つことが、新型コロナウイルスなどからの感染リスクを低下させ、重症化を防ぐことにつながると認識しています。そのために我々会員ができることは、診療における感染機会を極力減らしながら、患者さんの口腔内をよりよい環境に導くことにほかなりません。

本会ホームページには、現在、矯正歯科治療を受けている患者さんで通院予約を延期している方に対するトラブル防止のアナウンスも掲載しています。ぜひ、参考にしてください。

中止 brace smile contest 2020

患者さんの安心・安全を守るため今年度の「ブレース スマイル コンテスト」は開催を中止することとなりました。応募をご検討いただいていた皆さまには大変申し訳ございませんが、ご理解くださいますようお願いいたします。



わたしたち矯正歯科医会の取り組み ⑤ 養護教諭等向け講師派遣事業

養護教諭が開催する研修会等への講師派遣事業は2013年より今日まで全国32か所で実施され、800名を超える養護教諭にご参加いただきました。この取り組みは、矯正歯科治療を安心・安全に受けていただくため、養護教諭を対象に正しい矯正歯科治療の理解と本会の認知度向上を目的とした啓発事業です。

2016年に学校歯科健康診断の指針が改訂され、「歯列・咬合」が将来的に口腔および全身の健康におよぼす影響について、教育の視点からリスクの認識を深めるための取り組みが始まり、養護教諭にも知識が求められるようになりました。一方、矯正歯科医療は専門性が高く、学校歯科医の先生からのご指導を補完するため、矯正歯科専門開業医からなる本会から、求めに応じて無料で講師を派遣しています。

研修会では本会のMOOK本やニュースレター、『歯並びと

咬み合わせのガイドブック・ダイジェスト版』や『保険で治せる矯正歯科治療があるってご存知ですか?』などが配布され、内容についてかきやすく工夫をしています。

参加者からは、「咬み合わせの重要性和矯正歯科治療について学ぶことができた」、「今後の生徒や保護者への指示や助言に活かしたい」といった感想が寄せられ、学校での指導に反映されることが期待されます。

この事業は、対象を養護教諭に限らず、教育委員会等の学校歯科保健教育に携わる方々もご参加いただけます。また、学校単位での開催も可能です。

講演会では、矯正歯科医がわかりやすく咬み合わせの重要性を解説する

